まほらいな市民大学の様子

令和７年７月１７日（木）

『　登戸研究所の伊那谷疎開　』

講師　登戸研究所調査研究会共同代表　小木曽　伸一　氏

終戦から８０年。戦争について、そして平和について学ぶ講座を行いました。

小木曽伸一さんから、駒ヶ根市中沢に疎開してきた「登戸研究所」で、昭和２０年４月から学生たちが動員され、秘密に「爆弾製造」を始めた話がありました。当時の手記や聞き取り調査などから、その事実についての話がありました。その頃は、長野市松代や安茂里地域への大本営移転計画に合わせ「本土決戦」のために兵器を製造していたとのことです。「爆弾」は上陸してくる敵への「迎撃用兵器」でした。「国民義勇戦闘隊の編成」「一億総攻撃」「肉迫攻撃（自爆攻撃）」の話など、まさに伊那谷を舞台に決戦が行われようとしていたことがわかりました。戦争の恐ろしさ、悲惨さ、家族を思って命を落とした人のことなどを学び、「二度と戦争はしない」とあらためて考える機会となりました。

学生からは「父は満州に行っていたとのことでしたが、戦争の話は一切しなかった。悲惨な状況で厳しい経験をしてきたのではないかと思います。」「この伊那谷で本土決戦が行われようとしていたことを知り、怖くなりました。当時の話を聞くと悲しくて泣けてしまいます。」「戦争の現実を知り、戦争を二度と起こさないためにも今日の講座は大事でした。小木曽先生ありがとうございました。」といった感想がありました。